

令和6年度第2回佐伯図書館未来構想協議会・報告書

開催日時：令和6年7月24日 午後2時～

開催場所：教育委員会「まな美」3階市民活動室

委員：出席・・桑門 超 金 成妍 檜垣 伸晶

張 凱勛 御手洗 慎太郎

水本 陽子 河野 美紀

欠席・・田中 淳子 長野 雅樹 山本 智子

事務局等：教育部長 久々宮克也

社会教育課

課長 丸山純一 戸高直人 首藤幸一郎 渡辺公広 吉岡千鶴

政策企画課

課長 末永健二

佐伯図書館

館長 三原容子 ナカバヤシ株式会社 石水啓介

内容：①これからの佐伯図書館の具体的機能やサービス（案）について

指針に基づいた具体的機能やサービスの素案を示し、2つのグループに分かれ、それぞれのグループで協議を行い意見をもらった

意見等：①これからの佐伯図書館の具体的機能やサービス（案）について

指針：○心豊かで寛容さを持つ「佐伯人」^{さいきびと}を育てる佐伯図書館

○人と人がつながり、命を守り、未来を創造する佐伯図書館

○佐伯を愛し、魅力を発信する佐伯図書館

【意見】

◇1グループ（金 成妍 檜垣 伸晶 御手洗 慎太郎 水本 陽子）

○外国人向けの日本講座は当面いらぬのでは。なかなか人数の把握がでぬ。

○外国人講座による多文化講座の開催、これは先ほどの外国人向け日本語講座と同じように当面いらぬのでは。

○地域づくり・環境・福祉・健康等、専門書の充実は、書籍の購入自体に費用がかかる部分、ニーズがどの程度あるのかという部分から、これ県立図書館や国会図書館の活用で十分いいんじゃないかということで、いらぬのでは。

○外国語の表記の整備は、外国人の講座等と同様、いらぬのでは。

○市民の憩いの場となるスペースの整備で、おしゃべりができるスペース或いはカフェコーナーの整備については、新図書館への期待という意味で挙げてほしい。

○図書館スタッフのスキルアップ、専門スタッフの充実については、いらぬのでは。

○佐伯市役所のコーナーの設置は、前の指針で「さいきホットコーナーの設置」があるので、絡めた表記がいいのでは。

○佐伯人の検定の実施・佐伯の魅力を発信する人材バンクの作成については、その必要性はまだいらぬのではないか。

○佐伯の魅力掘り起こしの取り組みの魅力発見サイトの開設も、この項目だけを評価するのではなく「さいきホットコーナー」などと合わせていいのでは。

○年齢（世代）によって利用するツールが違うので、充実、活用が少し難しくなるのではと思う。

○様々な佐伯市の旬な情報の提供も、「さいきほっとコーナー」などと合わせていいのでは。

◇2グループ（□桑門 超 □張 凱勳 □河野 美紀）

○全国各地、世界各国の多文化の理解を深める取り組みでは、外国人の講師であったり外国人とシェアであったり、交流とかのイベントがあると良い。

○外国語の文字の表示とかではなく、その文化の交流とかを重要にするのが良い。

○アンケートから、親子世代だけではなく中学生や小学生も、飲食ができるスペースとかカフェのスペースがあったら良いと挙がっているので、ここは強調しても良いのでは。

○外国語の表記は、その必要はないと思う。

○図書館のスペースは結構あると思う。このスペースを市民活動の紹介であったり、市民の方々が発表できるところとか、使えるところがあると、もう少しPRしていく必要があるのでは。

○専門スタッフは、資格取得者ということをしてPRができる。

○ワンステップということで、とりあえず図書館に聞いて、正しいところにつなげてくれることがあればいいのでは。

○極端にスタッフに新しいものを学ばせることは、スタッフに負担を強いるので、DX化とかAIの活用することが大事だと思う。

○SNSは大事だと思う。SNSの関係人口やオンラインの関係人口を有効に活用することはすごく大事。

○IターンとかUターンの人、佐伯に住んでる人、佐伯以外の人に、佐伯の魅力を伝えるような、また、佐伯地域外の人に佐伯とは、実はこういう資源があるんですよっていうのを伝えるツールがあったらいいなと思う。

○「お得なお知らせ」とか「情報」は、現在高校生とか若い方にも人気があると思うので、図書館も本を借りる場所だけでなく、情報の集積地として考えてもいいと思う。

○地域内のアンバサダーというか、若い方や若いママを囲み、実際にコミュニティの中にいる人に発信をしてもらって、それを図書館がバックアップするとか一緒にプッシュをするっていうのが大事だと思う。

指針：○子育てを応援する佐伯図書館

○佐伯っ子の成長を見守る佐伯図書館

○いつでもどこでも本に出合える佐伯図書館

【意見】

◇1グループ（□金 成妍 □檜垣 伸晶 □御手洗 慎太郎 □水本 陽子）

○学校図書館と図書館の書籍の充実は、システムの現状、難しいところがあると思われる。

○子どもたちの本への関心を高める取り組みで「年代別図書館大賞の開催」があるが、ランキングにとられる必要はないのでは。できたら、おすすめの本とか言葉を変えた

り、ブックトークとかで良いのでは。

- 子どもたちの読書への関心を高める既存事業の充実に「図書館お泊まり会の開催」というのがあるが、例えば防災教育と兼ね合わせた取り組みになれば、非常にいいのでは。
- ホームページの充実の中で、中学生高校生の専用サイトを開設するとあるが、技術的には学校の支援が必要であり、立ち上げ後の継続が厳しい状況になるのでは。専用サイトという表現よりも、中学生高校生のコーナーを開設するというのはどうか。
- 子どもたちへの学習支援という項目の中の利用時間の拡大という部分ですが、子どもたちへの安全対策が必要。例えば夏と冬の利用時間を変えるとかの配慮なりが必要ではないか。
- 利用時間の見直しで、どの程度の利用が期待できるのか、ニーズの把握が大切。例えばカフェの開設時間と合わせて考えれば、利用者が増加し、夜間開館についても理解が示されるのではないか。
- 市民の読書活動の推進で商業施設等の図書館コーナーの設置という部分で、商業施設の中に民間の図書館が入っているところがある。そういった民間の図書館との連携も良いのではと思う。

◇2グループ（□桑門 超 □張 凱勳 □河野 美紀）

- 子育ての部分は必要だと思う。特に環境の整備は重要で、一般の方と、子どもたちのエリアを分けることは大切。子どもたちも自由に話のできるスペースが必要。
- アンケートでもあったが、子育て世代の71%が図書館を利用していない、例えばインターネット環境の整備であったり、駐車場の利便性、また清潔さという部分も大切。トイレや授乳室の機能性を充実することは大事である。
- 読み聞かせなどのイベントも大切。子育て世代のお母さんはコミュニティーを持っているので、そこで宣伝してもらいなども考えられる。
- 子供の読書への関心を高める取り組みとして、読書とか図書館を生活の習慣の中に組み込むことが大事と思う。日本は、放課後は児童館に行こうという文化があった。小さい年齢から図書館のイメージを埋め込んだ方が良い。
- ビブリオバトルは良い。中学生や高校生（スマホ世代）などに本のよさを、能動的に発表してもらうことは大事。
- 学習室の充実、インターネット環境の充実が必要。
 - 電子書籍は著作権とか著作権とかあるなかで結構難しい。今後の検討が必要と思う。
 - 九州の中でも一番広い市なので、コミュニティーセンターなどで本を貸し借りする、返却するサービスを衛星型に広げることは必要だと思う。
- 夜の図書館は安全性の問題もあるが、例えば月に3回とか4回とかで限定するというのも良いのでは。スタッフの配置の調整も可能になり、また、限定することによってPRにもなると思う。
- 自動の貸出機、返却機は高価なイメージがある。コミュニティーセンターなど衛星型のスポットであったりそこで気軽に返却できるシステムをつくる取り組みができれば良いと思う。
- アンケートを見ると、図書館のイメージが古いとか不便というイメージがある。イメー

ジの改善のために、図書館のブランディングによりイメージを変えることが必要。そこをもう少し強調できたら良い。